

景 観 計 画 書  
(神田川景観基本軸における建築物の建築等)

当該行為における景観形成に関する考え方	
記載欄	
(1) 配置	
<input type="checkbox"/> 壁面の位置の連続性や適切な隣棟間隔の確保など、神田川沿いの街並みに配慮した配置とする。 記載欄	
<input type="checkbox"/> 敷地内やその周辺に歴史的・文化的な資源や保全すべき樹木等がある場合は、これらを活かした配置とする。 記載欄	
<input type="checkbox"/> 神田川に建築物の顔を向けた配置とする。 記載欄	
<input type="checkbox"/> 隣接する建築物の神田川沿いの壁面の位置を揃えるなど、周辺のまちなみに配慮した配置とする。 記載欄	
(2) 高さ・規模	
<input type="checkbox"/> 神田川から見える建築物の高さは、周辺建築物群のスカイラインとの調和を図り、著しく突出した高さの建築物は避ける。 記載欄	
<input type="checkbox"/> 神田川の水上市、対岸、橋梁などの主要な眺望点（道路・河川・公園など）からの見え方に配慮する。 記載欄	
(3) 形態・意匠・色彩	
<input type="checkbox"/> 神田川から見える建築物の外壁は、単調なものや長大な壁面など周辺のまち並みから突出するものを避け、建築物自体のバランスだけではなく、神田川周辺の街並みと色彩、素材などにより調和を図る。 記載欄	
<input type="checkbox"/> 建築物に附帯する屋外設備や階段等は、高層階や上空からの視線に配慮するとともに川や通りから見えない位置に配置する。やむを得ない場合は、建築物と一体的な意匠とするか、ルーバーや緑化などにより修景するなど、周囲から目立たない工夫を施すなど建築物本体や周辺との調和を図る。 記載欄	

<input type="checkbox"/> 建築物等の色彩や素材は、次の事項に適合するとともに、周辺との調和を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外壁の素材は、耐久性があるものを積極的に使用し、光沢があるものは控える。</li> <li>・地域で親しまれている色彩（別表参照）の活用に努める。</li> <li>・外観の色彩は、別表に定める基準に適合するものとする。</li> </ul> <b>記載欄</b>
(4) 公開空地・外構・緑化等
<input type="checkbox"/> 高層階や上空からの視線に配慮し、できるだけ屋上緑化を図る。 <b>記載欄</b>
<input type="checkbox"/> 神田川沿いや道路側に積極的に緑化を行う。 <b>記載欄</b>
<input type="checkbox"/> 緑化に当たっては、川辺の環境に適した樹種を選定する。 <b>記載欄</b>
<input type="checkbox"/> 夜間の景観を落ち着いたものとするため、過度な照明を神田川に向けないようにする。 <b>記載欄</b>

上記以外で特に景観に配慮した事項